突撃！子ども記者！音成先生に迫る！

今回で５回目となる突撃インタビュー企画！今回の取材対象は小学５年生担任の音成先生です。子ども記者達は音成先生にどんな質問を投げかけたのでしょうか？音成先生の意外な一面が明らかになるかも…!?

チームメンバー
しゅん、ゆうか、あおい

Q.好きな車は？
A.ビートルです。
可愛いから乗ってみたい。

Q.好きなテレビ番組は？
A.バラエティ番組。
「火曜は全力！華大さんと千鳥くん」がオススメ。

Q.無人島に一つだけ持っていけるとしたら？
A.ライターです。まずは火が大切。

チームメンバー
かんだい、わかな、さわ

Q.行きたい国は？
A.フランスです。
歴史的建造物が好きだから。
ルーブル美術館も見てみたい。

Q.いつ先生になろうと思ったの？
A.小学校5,6年生の頃の担任の先生の影響で。
小中学生の頃は小学校の先生になりたくて、高校生の頃は高校の先生になりたいと思っていた。

Q.得意な教科は？
A.社会。日本史や歴史が好き。
算数や理科は苦手。

チームメンバー
たくま、らいと、ゆさ

Q.好きな動物は？
A.ライオン。私がしし座だから。

Q.好きなサンリオキャラクターは？
A.タキシードサム。
小学生の頃から好きなキャラクター

Q.１週間同じ給食なら何が良い？
A.うどん。あっさりしていて、色々なトッピングを楽しめそう。

育友会報
大明
発行
大明小・中学校育友会
小学部会長　中村 朋美
中学部会長　馬場 浩文
編集／広報部
(株)Takara

おにぎり弁当

今年度、研修部よりふれあい弁当企画を引き継ぎ2回目のお弁当の日になりました。

今回、おにぎり弁当を選んだ理由をお話しします。

大明地区は以前、九州北部豪雨等の大きな災害に見舞われました。

災害時には、水やガスが不足し、調理環境が整わない等により炊事が難しい状況が多く発生します。

そんな時、簡単に配布出来、誰でもすぐに食べられる食事がおにぎりです。

お皿やはしがいらず、手で食べられるため避難所でも安全・手軽にエネルギーをとれる大切な食べ物です。日ごろから作り方を練習しておけば、いざという時に安心して食事を用意できます。

災害に合わない事が1番ですが、いつ何が起きるかは誰にも分かりません。

そんな時でも1人ひとりが助け合い、生き抜く力を身に付けられるようにと考え今回のおにぎり弁当を企画しました。

母親部 梅原

いただきます

大明校区版 防災かわら版を作成しました！

近年多発する災害には市内各校区で異なるリスクがあります。そこでNPO法人ひかり水環境ネットワークセンターと連合育友会が連携して、校区に伝えたい防災メッセージを児童生徒がメッセンジャーとなって呼びかける防災かわら版のポスターと、それを補う動画を撮影しました。

2月16日の撮影は、小学４年生が防災の授業で習ったことを基に、防災士の石井さんからの質問形式で行われました。

出演頂いた4年生の皆さんありがとうございました。
皆さんも、完成したポスターと動画をぜひご覧ください。

防災について学びました

研修部より

研修部では学期ごとに家での過ごし方チェックカードを実施しています。

昨今、子どもたちの読解力が課題となり一昨年より親子読書に力を入れてきました。

保護者の皆さまにも仕事や家事・子育ての合間を縫って、貴重な時間をいただき、取り組み期間中は親子での読書や兄弟への読み聞かせ、メディアを使用しない過ごし方を各家庭で取り組んでいただきました。

その中で、読書については小学部低学年ではかなりの高い数字で実施いただいていますが、高学年や中学生となると習いごとや部活・宿題等で中々読書の取り組みが困難であると判断し課題が浮き彫りとなりました。

また、本年度２学期より十分に睡眠を取ることで受賞や学習に集中出来るのではと睡眠時間についてもチェック項目に加えました。

しかし、実施してみると思外に就寝時間が遅く、平均睡眠時間より下回っている児童・生徒が多いことが判明しました。

様々な要因があると思いますが、各家庭での取り組み等の協力が必要不可欠であると感じました。その為、実施期間前にクラス委員長さんにお力添えいただき、各家庭へ電話・呼びかけを行い、少しずつですが読書の取組も点数が上がってきていると感じます。

睡眠中に限らず各家庭でも日頃から家庭での過ごし方について私たち保護者も10分でも15分でも子どもたちと一緒にメリハリをつけた生活が出来るように今後も取り組んでまいります。

家での過ごし方チェックの結果

今回の結果から、小学生では家庭での生活習慣が比較的高いという一方で、学年が上がるにつれて生活リズムや読書の時間を確保することが難しくなっていることが分かりました。

今後も家庭と学校が協力しながら、読書の習慣づくりや、メディアとの付き合い方、十分な睡眠時間の確保について取組し、子どもたちが健やかに成長できる生活環境づくりを進めていきたいと考えています。

第49回（令和7年度）大分県PTA広報紙コンクール入賞

2月26日に行われた『第49回（令和７年度）大分県ＰＴＡ広報紙コンクール』において、育友会報「大明」が県PTA連合会長賞を受賞しました。

昨年から広報紙がカラー版になっていたものの、手違いでコンクールに出品できず、満を持しての出品作が全体で２位に相当する受賞で、励みにもなり、大変嬉しく思います。

広報部の皆さん、原稿や取材に協力していただいた関係者の方々、ご協力ありがとうございました。

愛校作業を実施しました！

2月15日（日）9時から卒業式前の校内美化作業を行いました。多くの方にご参加いただいて、普段手が届かない校内の全ての窓ガラスがきれいになりました。

卒業生には、綺麗になった校舎で明るい未来に旅立つことを期待しています。

ご参加していただいた保護者、教職員、児童・生徒の皆さんありがとうございました。

玄関ピッカピカ　教室もピッカピカ

花粉症におすすめ 親子クッキング

レンコンマヨネーズ炒め

今回は旬の野菜レンコンを使った料理を作ってみました。ポン酢のさっぱりした味とマヨネーズで子供もご飯が進む広報部員おすすめのレシピです。ぜひ親子で作ってみましょう。

材料

豚肉　150グラム
レンコン　200グラム
砂糖　小さじ1
マヨネーズ　大さじ1
ポン酢　大さじ2
ゴマ油　適量
ゴマ　適量

作り方

①フライパンにゴマ油を入れ、豚肉を炒める。肉が炒まったら、厚めにカットしたレンコンを炒める。
②全体に油が回ったら、砂糖、マヨネーズ、ポン酢を入れ、ジュ―とさせて全体に絡ませる。
③最後にゴマをふりかけて出来上がり。冷めても美味しいので、お弁当にも最適

効果

①レンコン　咳やたん、花粉症対策
②ゴマ油　コロコロ便の便秘
③ゴマ　血糖値の上昇を抑える効果

おいしいにおいがしてきた～

出来上がり～

おしえてセンパイ 第9弾

峰々や職業や取り組みで頑張る大明校区のセンパイから、今の児童・生徒達へ伝えたいこと書いて頂きコーナー。

9回目の今回は、学校医として児童・生徒の内科検診を担当し、校区内唯一の医療機関として地域住民を支える、井上鶴川堂院長の井上一郎先生に地域を担う子どもたちへ伝えたいことを伺いました。

「地域を担う子どもたちへ伝えたいこと」

総合診療／内科・外科
医療法人　井上鶴川堂
院長　井上　一郎

私は、この地元で育ち、学び、そして「地元の役に立ちたい」という思いから医師になる道を選びました。都会で働く選択肢もありましたが、医療が身近にあることが地域の安心につながると考えてここに戻ってきました。

全国の「地方」と呼ばれる、特に過疎化が進む地域では、病院、学校、仕事、人とのつながりが一つ欠けるだけで、暮らしは一気に不安定になります。

だからこそ、誰かが「残る」「戻る」「支える」ことに意味があります。

地元を元気にする一番の力は、「ここにしかない価値」を自分たちが知り、誇り、関わり続けることです。

理由と具体策としても、過疎化は人口が減る現象ですが、「同時に一人の関わり」が減る現象でもあります。小学生・中学生の皆さんには、まず自分の住んでいる地域をよく知ってほしい。自然、食べ物、仕事、歴史、人のやさしさ、当たり前に見えるものの中に、他の町にはない強みがあります。それを調べ、発表し、外の人に伝える経験は、将来必ず力になります。

小学生・中学生の皆さんへ伝えたいのは、今はまだ実感がないかもしれませんが、皆さんが見ている風景、遊んでいる場所、話しかけてくれる大人たちは、他の町にはない大切な財産です。勉強や部活動を通じて力をつけ、一度は外の世界を見ても構いません。その上で、「自分は『この町で何ができるか』を考えてほしい。それが将来、地元を支える力になります。

父兄の皆さんへお願いします。子どもたちは、大人の背中を見ています。地元を悪く言うよりも、良さや可能性を言葉にして伝えてください。地域の行事や仕事に子どもを関わらせることは、将来の選択肢を広げます。

地元の活性化は、すぐに結果が出るものではありません。しかし、10年、20年という時間の中で、確実に実を結びます。私も医師として、この地域に関わり続けます。皆さん一人ひとりの関わりが、地元の未来をつくります。そのような「未来」が待っていますように、私の願いです。

診察中

編集後記

広報部　判田　直也

広報部員として2年目になりました。最初、広報紙作りは難しそうだなと思っていました。ですが2年目となった今、もちろん大変なこともありますが（笑）、それ以上に、学校という場所が多くの人の愛情で支えられていることを知る喜びを感じています。

最初は真っ白な紙面を前に途方に暮れていましたが、広報部の先輩方から教わりながら「どうすればもっと伝わるか」を話し合う時間が楽しみの一つになりました。

子ども達が一歩ずつ進むように、この広報紙も少しずつ、皆様の心に届くものへと進化できれば幸いです。2年間、多大なご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

広報紙作成風景

大明小中学校のホームページはこちら

＼小学校／

＼中学校／